

農薬の国際的人体実験場たといううわざもあります。何事にも、生産優先、健康ギセイの傾向の強いわが国においては、とくにこの問題に皆が関心を持ち、その危険を論ずることが必要ではあるまいか。

終わりに、この農薬公害をかちぬくためには、散布前の摂生、散布中の要心、散布後の注意などの外、血液検査を随時受けて自分のコリンエステラーゼ活性値の変動ぐらゐは知っておくと心強いと思ひます。

日本農村医学会評議員  
東京医科歯科大学講師

## 桜川の美化に就いて

小 松 清 次

時は流れ世は移り変わるとも、山は昔のままに気高く、水は依然として明るくありたい。またそうでなくてはならない。筑波山系の山々から落ちて沢となる水はいずれも淨い。これがいくすじも合流して桜川となり、えんえんと霞ヶ浦にそそぐ。人々は山紫水明なこの自然美を常陸の名川と称えて、芦花の「自然と人生」に見る「桜川の逍遙」は遺憾なくその情緒をあらわして居る。然しながら近代社会の発展に伴ない少なからずこの自然を損うに至り、土浦市街の近傍に至りては水は汚れ、水藻は枯れ、魚族は減り、我々市民の生活環境は危態に類している。川をきれいにし、この水を汚さないように導いて流域住民の生活をより美しく、より豊にすることは当然の常識でなければならぬはずだが、これがなかなか出来ないとところに現代世相の持つ悩みがある。

我々は霞ヶ浦という天与の水系を擁してあまりにも水